

令和8年3月の景色



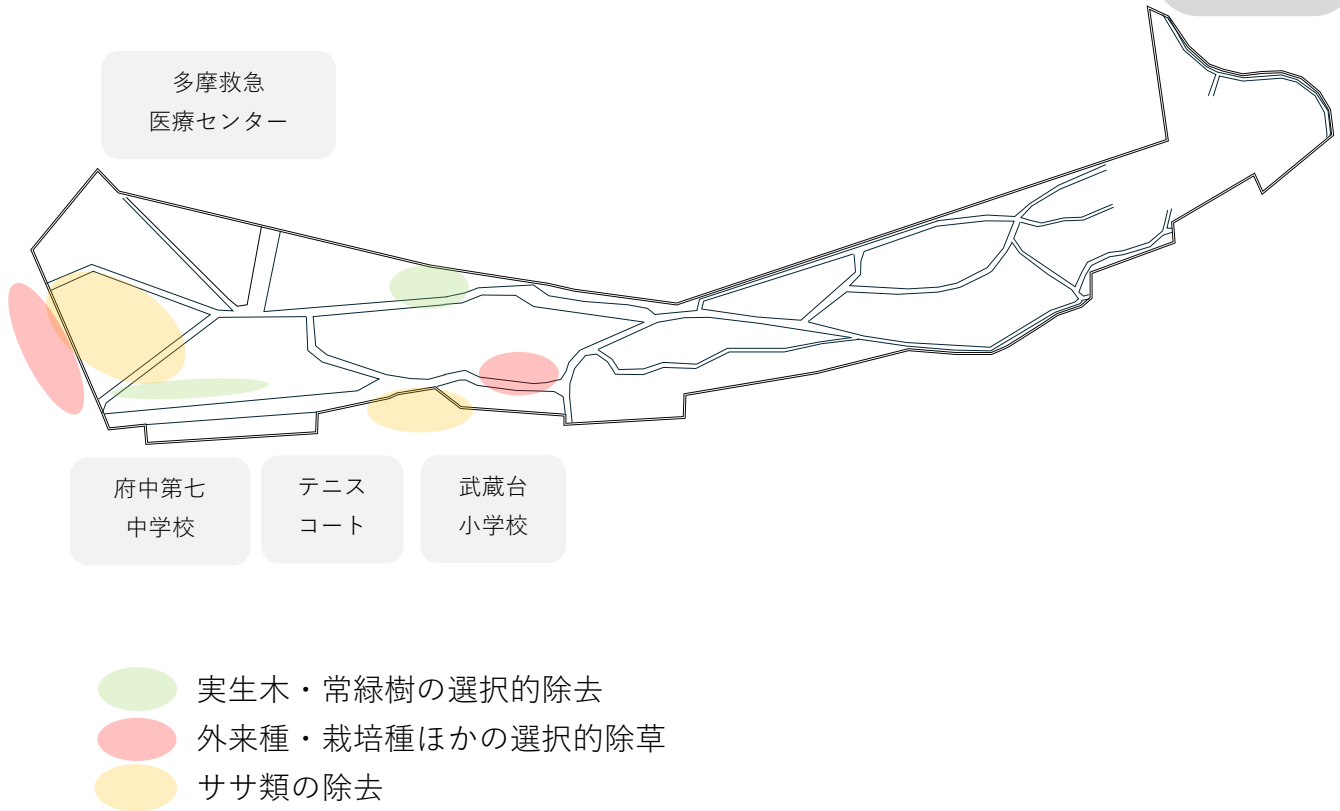
ミミガタテンナンショウ サトイモ科 テンナンショウ属

山野の林内に生える多年草。今月、斜面下の林内で1株だけ見つかりました。筒状の花びらのように見える部分は仏炎苞と呼ばれますが、この縁が耳たぶのように張り出していることから名前に「ミミガタ」とつけられたそうです。同じテンナンショウ属の植物では、ウラシマソウやムサシアブミの方がよく見られます。ムサシアブミは本来、海岸近くの常緑林に生育する植物で、武蔵台緑地にある植物は植栽個体から広がったものと考えられています。

業務の実施内容

- ・ 選択的除草
- ・ ササ類の除去
- ・ 常緑樹の選択的除去
- ・ バイオネストの維持管理
- ・ 定期巡回・点検
- ・ ボランティアとの協働（市民協働）
- ・ 判別調査（植物相調査）

作業箇所図



選択的除草

選択的除草では主に外国や、国内でも遠い地域から持ち込まれた植物を除去しています。観賞目的で外国から持ち込まれたものが、人為的に自然のなかに持ち込まれる例もあります。写真の植物はその一例です。毎年除去していますが、翌年にはまた出てきます。ただし、出てくる量は減ってきています。



ハナニラ



ハナニラ 昨年度の葉のようす

ササ類の除去

武蔵台緑地の「植生管理ガイドライン」では、目標とするササ類の高さが示されています。それらの方針に沿って、ササ類を刈り取りました。

ササ類の高さを低く抑える場所



作業前



作業後

ササ類の高さを低く抑える場所だが、繁茂した栽培植物（クマザサ）に追いやられ、在来のササ類は少ない状況だった。（高く稈が伸びているのが在来のササ類 ←印）ここではクマザサの選択的除去も実施しました。



作業前



作業後

常緑樹の選択的除去

低木層に常緑樹が増加すると林内が暗くなり、落葉樹の若木や草本が生育しにくくなります。とくに、トウネズミモチ（外来種）やアオキ、シュロなどの増加は、アズマネザサの繁茂とともに樹林の藪化の原因になっています。（中略）

常緑樹を取り除くことで林内を明るくし、在来の落葉低木の生育を促すとともに、多様な草本種が生育できる環境を維持します。

『武蔵台緑地 植生管理ガイドライン』より引用

常緑樹の実生木を選択的に除去しました。



作業前



作業後

バイオネストの維持管理

バイオネストとは、緑地の手入れで発生した枝や葉っぱ、草を投入し、分解させる場です。葉や草は中央に投入し、枝はバイオネストの囲いとして活用します。



定期巡回・点検

緑地内を巡回し、捨てられたごみの回収や樹木・設備等の破損がないかの確認をしました。



投棄物 伐採・伐根されたツバキと思われる
樹木の幹と根株



投棄物 空き缶



投棄物 枝・芝生 五徳



投棄物 ペットボトル

ボランティアとの協働（市民協働）

府中市環境調査員会議との協働 自然環境調査（植物班）

毎月1回開催される自然環境調査（植物班）に同行し、調査をしています。
調査日以外に見つけた生育場所・状況等については随時、情報提供をしています。

武蔵台緑地保全ボランティアとの協働

緑地整備活動に同行し、手入れ内容や方法についての助言や植物生育状況などについて
情報提供をするほか、イベントの協力もしています。

今月は、先月に引き続き武蔵台小学校5年生の環境学習の支援をしました。
児童の皆さんが作成したポスターの緑地内への設置に加え、緑地内で実施している手入れの
体験をしてもらいました。



人為的に持ち込まれて繁茂した栽培植物



栽培植物のシャガを除去しました



環境保全啓発ポスターの掲示



通常活動日には希少植物のまわりの
ササ刈りを実施しました。

判別調査（植物相調査）

こまめに実施し、毎月1回の自然環境調査では確認していない時期や場所での植物の生育状況を記録しています。目に留まるものがあれば、鳥や虫についても記録しています。



ヒメカンスゲ 花



3月第1週にはカンゾウの葉が出ていました



タチツボスミレ 花

緑地内で一番多く見られるスミレです



ナツグミ 花



外来種の花も咲いています
こちらはショカツサイ
昨年も芽生えて花が咲きましたが、
実ができる前に全て除去しました

前年に種子は落ちていないはずですが
それでもこのように芽を出してきます
生命力のたくましさを感じます